

大型太陽光パネルに対応

蓄電性能大幅アップ

徳島県立工業技術センター(徳島市)は、1時間当たり2割の発電が可能な大型太陽光パネルに対応した「リチウムイオン蓄電池システム」を完成させ、1日から実証実験を始めた。既に公共施設などに設置されている大型パネルの電力を蓄電できるようになることから、普及が期待される。

県工技センター 新システムを開発

リチウムイオン蓄電池 良した。太陽光パネルが1時間当たり60%ほどのシステムは、県内の産学から供給される電力の蓄電効率を高め、電力交換回数が2010年度に製作した「多機能防災システム」が2010年度に製作した「多機能防災システム」で使

ったが、新システムではこれまで蓄電が難しかった大型パネルの電力も利用できるようになるため、蓄電量を大幅に向上させることができる。実証実験は、工技セン

ター内にある四国コカ・コーラボトリング(高松市)の「メッセーじボード内蔵災害時救援型自動販売機」と接続して行う。従来の災害時救援型自販機は停電時、内蔵バッ



リチウムイオン蓄電池システムと接続した自販機—徳島市の県立工業技術センター

テリーの消費電力を節約するため、災害情報などを流すメッセーじボードの機能が停止され、自販機内の飲料を無料で取り出せる「フリーベンド」機能だけが利用できるようになっている。実験で

は蓄電量が多い新システムと接続し、両機能を作動させる。同社の担当者によると「再生可能エネルギーを活用した自販機は、全国のコカ・コーラの自販機で初めて」とい

えた。(湯浅翔子)